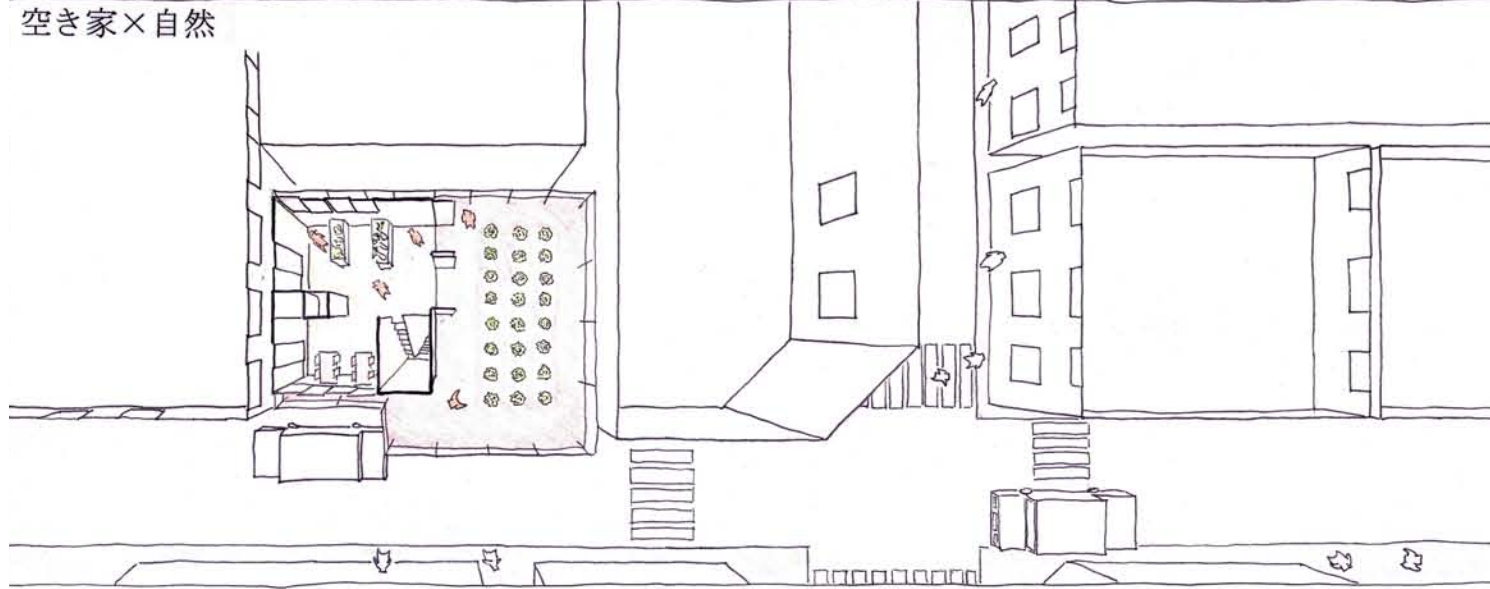


空き家=空き地

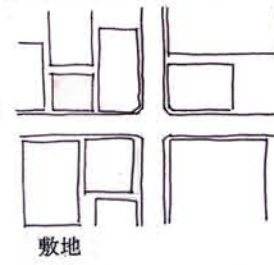
空き家を空き地と考えた。
 現代の日本では顧っぱと呼ばれる空き地が減少しつつある。それとは対照的に空き家は増加しているようだ。空き家が増加することで景観の悪化、放火や不法投棄などの犯罪の温床となるなど様々な問題が起きている。そこで空き家を空き地のように活用し、これらの問題を解決しようと考えた。空き家を空き地のように誰でもはいる空間としてとらえることで、地域の人々が自由に活用できる。例えば中心には農業を通して自然と触れ合うことのできる場、田舎には農家のたまり場、住宅地には子供の遊び場と、それぞれの地域に必要な場をつくる。そこには自然と地域の人々が集まり、そしてコミュニティが生まれる。空き家を空き地と考えることで空き家問題を解決し地域コミュニティを育むことができるだろう。



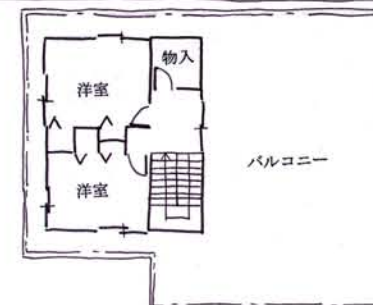
空き家×自然



都心に自然を作る



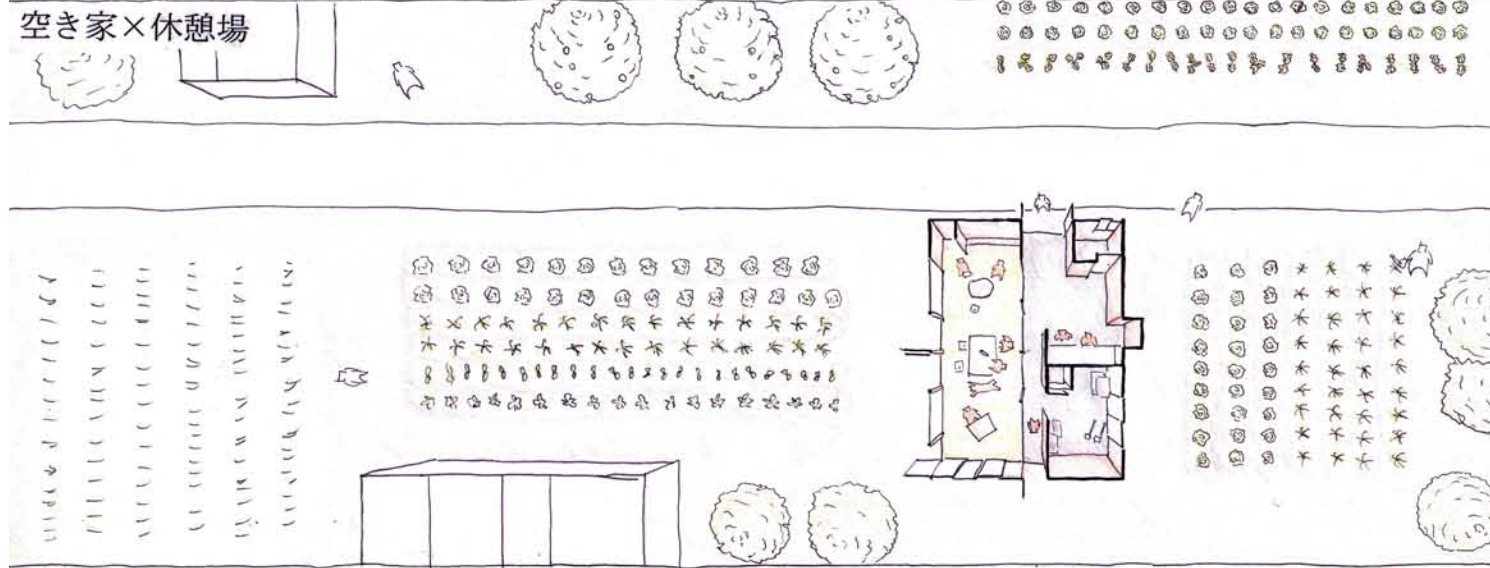
ビルなどが多く立ち並んでいる静岡の都心地域。自然が少ないこの地に農業を通して自然と触れ合える場をつくる。



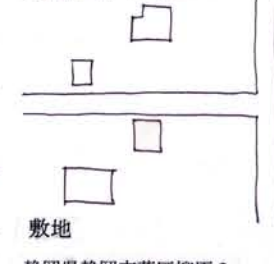
新鮮な野菜がかわる



空き家×休憩場



田舎に休憩場を作る



静岡県静岡市葵区柳原3
 周りは畑や田んぼなどの自然に囲まれた土地。ここに畑仕事を終えた人々が集まれる休憩場をつくる。



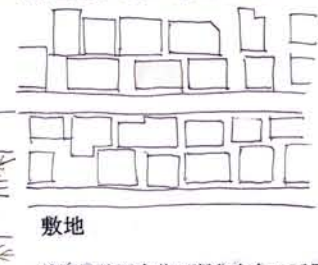
農家が集まりコミュニティが生まれる



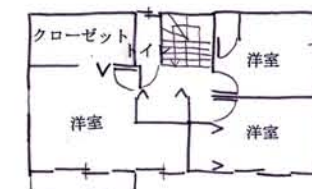
空き家×遊び場



住宅地に遊び場を作る



静岡県静岡市葵区瀬名中央1丁目
 元気な子どもが多い住宅地。ここに子どもがおもいきって遊べる遊び場をつくる。



空地のように元気に遊べる

